

オーストラリア口語英語の活力について

— 言葉は生きている —

柏瀬 省 五

1 言葉は生きている*1

言葉は大きくなる、強くなる、成長する。言葉は生きている。また、言葉は弱くなる。衰える、消滅する。また、言葉は競争する、流行する、伝染する。ある言葉は強くなり、拡張し、他を殲滅し、勝ち誇る。ある言葉は弱くなり、縮小し、駆逐され、死に絶える。英語も数ある言葉の1つであるから、成長し、拡大し、流行し、伝染する。そして運が尽きれば縮小し、衰え、消滅する。要するに言葉は生きているのである。

2 言葉の使用は人間の生命活動である

人間は生きるために人と人々が協力する。人間は、協力をするために、人と人々が互いに連絡を取る。自分の知識を他人に渡し、他人の知識を自分に取り込む。そして強くなる。自分が強くなり、他人も強くなる。強い二人が協力してもっと強い人間になる。強くなった人間は、様々な逆境に立ち向かって生きていく。楽しく生きていく。すなわち、コミュニケーション活動は、人間の生命活動である。口、耳を使った声によるコミュニケーション活動、目、手を使った文字によるコミュニケーション活動、両方のコミュニケーション活動とも脳内言語心理活動と相まって人間が生きるための生命活動である。

3 生命活動には快感がある

人間の生命活動には快感がある。食べること 着ること、そして生殖活動には快感がある。この意味において、言葉を使うことは、すなわち、人と人々が行うコミュニケーション活動には「快感」が伴う。コミュニケーション活動は楽しいもの、快いものである。

* 1 古典になるが、Darmesteter, Arsene. 1887. *La Vie des Mots*. Paris: Delgraveや Nyrop K. 1903. *Das Leven der Worter* translated by Rovert Vogot, Leipzig: Eduard Avenariusに詳しい。

4 言葉の三角形

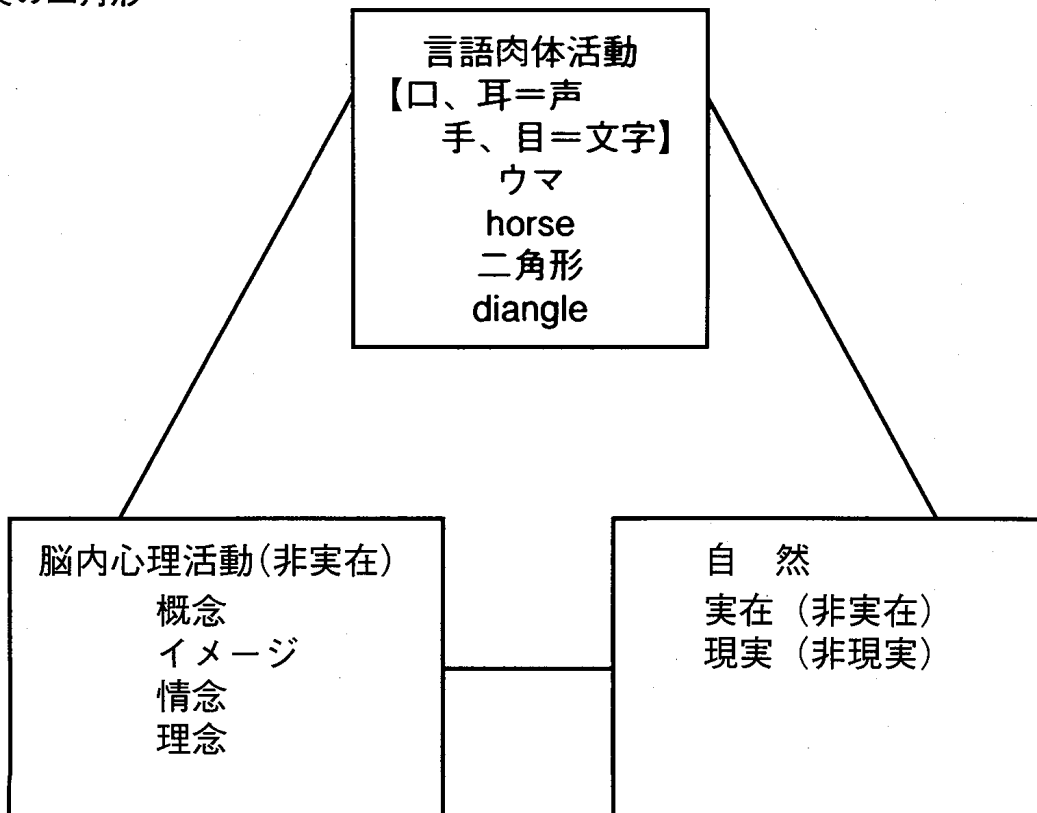
言葉を使うとは、すなわち、人間の言葉を使うコミュニケーション活動とは、人間の生命活動である。今ここで言葉を使う人間の生命活動を大枠で整理しておこう。言葉を考える場合、言語活動領域【話す、聞く、書く、読む等】と脳内活動領域【意味を考える、想像する、理解する、判断する等】と自然界存在領域【山や川が存在、犬や猫が走り、木や草が咲く等】との3つの三角形的領域の対応ないしは関連を考える。言語活動は、この3つの領域を有機的に関連づける活動である。確かに言語活動は身体を使う肉体活動である。がしかし、身体の中だけで完結するものではない。常に肉体の外の自然界と聴覚活動【話す、聞く、口、耳を使う】、及び視覚活動【読む、書く、目、手を使う】を通してつながっている。このような身体と外界との三角形をなす総合的關係づけの活動が言語活動である。特に身体の中の活動、口、耳、目、手の言語肉体活動と脳内言語心理活動を合わせて言語活動と呼ぶのが普通であるが、注意すべきは、口、耳、目、手の肉体活動と脳内言語心理活動は、体内神経でつながっているけれども、言語活動は身体内で完結しているわけではない。通常、言葉は必ず声となって、あるいは文字となって、いったん言語使用者の身体の外に出る。そして身体の外から声あるいは文字は、聴覚、視覚の形で身体内に取り込まれる。身体内ではその刺激に基づいて概念形成がなされる。すなわち必ず身体外の自然界を経由する過程が、最も典型的な言語活動である。「独り言」、「黙想」も言語活動の一種ではあるが、その人の外に出ていない点で例外的である。通常言語活動は、発信する人の声や文字がいったん身体の外に飛び出し、そしてまた、それらが聴覚刺激、視覚刺激として受け手の身体内に取り込まれる。身体と自然の一体となって織りなすダイナミックな総合活動が言語活動である。

例えば、今、我々は「ウマ」という言葉を例に考えてみよう。言語領域では、日本語で「ウマ」と発音しても、漢字で「馬」と書いても、言葉の基はできあがる。言語領域では、それを英語で“horse”と発音したり、書いたりすることもできる。何語で表現してもよい。言葉として原材料はできあがる。しかし、言葉は、それだけでは完結しない。必ず、その語の発音なり文字なりから、脳内活動領域に、【うま】なる「概念」を我々の頭の中に思い浮かべる。あるいは「意味」

といってもよい。「意味」を理解する。脳内心理活動領域では、我々の発する発音や、我々が書く文字に対応して、いつでも「意味」が生じる。「意味」が生じない場合は言葉ではない。「意味」があって言葉は完結する。しかし、実は、生命活動としての言語活動をしている肉体言語活動領域と脳内活動領域の照応活動は、多くの場合、自然界の事物、存在、関係と対応しているが、しかし、100%の対応ではない。人間の生命活動の領域内では、論理とか、理念とか、情念とか、気分といった心理ないしは精神界の活動も含む。

例えば、「二角形」というものを考えてみよう。言葉としては完璧である。英語で“diangle”と言うものを考えてもよい。しかし、これは、自然界には、「存在は不可」である。自然界に「二角形」というものは作れない。では、脳内活動としてはどうであろうか。考え方としては可能である。「2つの角と辺を持った図形」である。脳内心理活動領域の「意味」は成立する。しかし、自然界で存在させることはできない。言語活動によればこのように自然界では不可能なものを言葉では可能にすることができるのである。

言葉の三角形



整理しよう。言語肉体活動領域に音声又は文字としての「言語」があり、それに対応して脳内言語心理活動領域にその「意味」が対応して言葉は完成する。しかし、必ずしも自然界の存在と対応しているものではない。

5 口語（聴覚音声言語）と文語（視覚文字言語）の違いについて

次に言葉は、口語と文語では、根本的に異なることを説明する。口語のように聴覚音声を使う伝達手段は、文語のように視覚文字を使う伝達手段とはコミュニケーション活動の方式が根本的に違う。例えば、口語によるコミュニケーション活動では、意味を形成する複数の音素の固まりを数珠繋ぎにした語を連結して口で発音をして意味を送る。この作業は人間が一瞬にして記憶できる情報を限られた時間とエネルギーで実施する。文語では、手で書いて文字を連結して意味を送る。口語では、発音された語は、即、聞き手に音声で伝えられ、即、聞き手によってその意味は理解される。すなわち話すことと聞き取ることが音声を通してほとんど同時に行われる。文語では、書かれた文字、あるいは印刷された文字が、読み手に伝達され、読み手が、その文字を自分の速度で読み取って意味を理解する。書き手の文字化活動と読み手の読み取り活動とは、速度としても、時間的にも、方法的にも、また、活動が行われる場所的にもかなりの隔たりがあって、多くの場合独立している。一方、口語では、話すことと聞き取ることが同時に実施され、聞き手の意味を理解するスピード、すなわちコミュニケーションが成立するスピードは、常に話し手のスピードによってコントロールされ、決定される。

従って口語は、文語に比べ、遥かに即時的で、コミュニケーションが一瞬一瞬に成立する。その結果として、情報伝達の質の点では、しばしば難点がある。例えば、視覚を使う文字では、2つの文字を同時に見て同時に理解することができるが、口語による発音では、同時に2つの語を発音することはできない。従って、2つの語を同時に聞いて理解することもできない。その点で非経済的である。読み取りの活動でしばしば行われる「跳ばし読み」とか、「拾い読み」とか、「速読」に対応する聞き取りの「跳ばし聞き」とか、「拾い聞き」とか、「速聞」といったようなことはできない。

また、文語では「行間を読む」というように読み手が自分のやり方で文脈から様々なことを考えながら読み込むということが可能であるが、口語では「行間を聞く」と言うようなことはあり得ない。せいぜい話し手が、聞き手に敢えて考える時間として「間」と言うものを作って話を中断する高等テクニックがある程度である。

ただし、音声のコミュニケーション活動では、文字では行えない余剰的、副次的情報を伝達する能力がある。意味を伝える音素発音に加えて、文字ではできない微妙な発音の色合い、例えば、音声の強弱、音色、音調等を、付加的意味として語の主たる意味に加えて同時に音素に乗せて送ることが可能である。すなわち、「大声で言った」とか「甘えるように言った」とか「尻上がりに言って尋ねた」というような説明的意味を、発音時に発音の仕方に含めて同時に伝えることができる。

以上のように、口語と文語はそのコミュニケーションの仕方が根本的に違うのである。

6 口語の特徴について

口語によるコミュニケーション活動では、既に説明したように、発音する活動と聞く活動が同時的である。そして、そのスピードは、専ら話し手が決める。聞き手は支配できない。また、効率のよいコミュニケーションをするために、話し手は、可能な限り早口で話したがらるものである。送りたい情報が頭の中に溜まると、それを記憶しておく負担を軽くしようとして、急いで言葉として意味の放出を図る。すなわち早口でしゃべる。しばしば休止せず、繋げて発音する。口語では何語でも同じであるが、音声に乗せて「意味」を送る時は、休みなく意味の固まりを切れ目なく速く口を動かして発音するのが最も経済的である。オーストラリア口語英語も例外ではない。

7 口語英語を印刷英語文字を使って説明することについて

口語も文語もコミュニケーション手段として意味を送る点では同じだが、その

表現方法、発信方法、受け取り方法が大きく異なる。従って、口語英語の特徴の説明を、文字言語を使って説明するのは適切ではない。しかし、この小論においては、例えば録音を再生していちいち説明することができないので、口語英語を英文字と日本語カタカナの印刷文字で表記する。読者は口語英語の実態音を推測しながら読んでいただきたい。

一般に、口語英語の説明は、音声を録音したものを直接再生しながら説明すべきである。しかしここでは、便宜的に印刷文字表記で説明する。そのため、誤解が生じる危険がある。そこで、オーストラリア口語英語の説明に入る前に、オーストラリア口語英語を印刷英語文字で表記することについて、若干の注意を述べておきたい。

例えば、通常の綴りで、“Mention my name if you like. It won't do any harm, and it might do some good. I've just paid my bill.”（良かったら私の名前を言ってください。多少はお役に立つと思いますよ。ちょうど支払いを済ませたばかりですから）は、発音をかなり忠実に表記しているように思われている。しかし実は、実際の発音と大きくしかも重大な違いがある。すなわち、実際の発音では、単語と単語の間にある印刷空間スペースが、発音の時間スペースとしては全くないのである。つまり発音では、“Mentionmynameifyoulike. Itwon'tdoanyharm, anditmightdosomegood. I'vejustpaidmybill.”である。聞き手はこののっぺらぼうな数珠繋ぎの音素群を聞いて意味を理解する。しかし、「のっぺらぼう」なのは「視覚」であって、実は、副次的な同時音声信号、すなわち、文字信号では表せない微妙な発音時の音速とか、音の強弱、音色、音調等を混ぜ合わせて意味を送っているので、聴覚的にはけっして「のっぺらぼう」ではない。聞き手は送られてきた音声から、発信者が意図する「複雑な意味」を一瞬に聞き取りとって理解する。

上記の発音は、英語学者が通常使う「発音記号」で、近似的に表すと次のようになる。//menʃn'mai'neimifju:laik// itwɔunt'du:eniha:m //ɔnitmait'du:sɔm'gud //aiv'dzʰs'peidmai'bil// しかし、これも慣れない人には、分かりにくい。かつ、通常つけているいくつかの発音記号をここでは印刷の都合上、変更したり省略し

たりせざるを得ないので、詳細について少しばかり説明がある。しかし今詳細を説明する余裕がないので、この小論では通常の綴りを利用しながら、日本語の音声表記であるカタカナを必要に応じて混ぜた表記で、当座を凌ぐことにする。

8 オーストラリア口語英語は活力がある

次にいよいよオーストラリア口語英語について説明する。オーストラリア口語英語は、極めて活力に富んだ言葉である。ぶっきらぼうだという批判もあるが、簡潔で、バラエティに富んでいる。早口で判りにくいという批判もあるが、明快で、ダイナミックである。様々な工夫が施されていて新鮮である。結果として、オーストラリア口語英語は、使って楽しい。快感がある。要するに、オーストラリア口語英語は、活力に富んでいる。

オーストラリア口語英語が活力に富んでいる理由を、(1)発音の簡潔明快さ、(2)視覚的イメージの新鮮さ、(3)聴覚的リズムの軽快さの3つの視点から、具体例を例示して説明する。

オーストラリアのフォーマルな書き言葉英語は、基本的には、英国英語と同じである。例えば「センター」の綴りはcentreのように綴る。最近ではアメリカの英語の影響も受けて、centerのように綴る新聞もでていいる。しかし、発音、語彙、その他の口語表現となると、オーストラリア独特のものがかなりある。初めてオーストラリアを訪れたアメリカ人や英国人が何を言われているのかさっぱり分からなかったと言う話はよくあることだ。1982年にアメリカのフロリダで開かれたマイアミ映画祭 (Miami Film Festival) にオーストラリア映画が出品されたが、その作品に対して、米語の字幕をつけることが要請されたそうだ。また、英連邦のスポーツ大会でメダルを取ったオーストラリアの水泳選手が、女王陛下からメダルを掛けてもらった折り、記者会見で「女王陛下はあなたにどのように話されましたか」と尋ねられ、その選手は、“I don't understand her, because she speaks English and I speak Australian.” (女王陛下がどのようにおっしゃったかわかりませんでした。だって陛下は英語です。私はオーストラリア語を話しましたから) と答えた話は有名である。現在では、公式の印刷文字英語は世界中の何処でもほ

とんど同じように標準化されているが、日常の口語英語は、もちろん印刷文字英語とはかなり異なるところがあるが、そればかりではなく、世界のそれぞれの国でずいぶんと違うものである。

9 オーストラリア口語英語は早口で切れ目なく発音される

一般にオーストラリア人の英語の発音は(1)早口で音節の切れめがない。(2)口を開けずに発音する、と言われる。(1)の理由は、冗談ではあるが、好きなビールを飲む時間を少しでも多くするためだという。実際、口語というものは、すなわち、口を使って音を作り、その音声に意味を乗せて送る方法としては、英語に限らず、何語でも切れ目なく速く発音する。ビール等というものを知らない民族でも、早口で切れ目なく発音するものである。口語とはそういうものである。(2)の理由は、蠅が多いので口に入らないようにするためだと言う。実際、都市部を除けば蠅は今でもかなりいるので、一国の首相と言えども庭先で農夫と話をする時は、蠅を払うために顔の前で常に手を左右に振る。顔の前で手を振る仕草は Australian Salute (オーストラリア人の挨拶) と呼ばれるくらいだ。上記2つの口語の性質は、英語に限らず何語についても同じで、特になじみのない言語について聞き取るときの印象はどの言語についてもむずかしいものであろう。例えば、日本語においても、自分の知らない方言、例えば、津軽弁、鹿児島弁などを初めて聞いたときは、「早口だ、とか、口を開けずに発音する」という印象を持つものである。

発音はどの口語についても一般に切れ目なく発音されることは既に説明したが、オーストラリア口語英語の発音において、疑問形は、常に切れ目なく発音されるものである。しばしば海外から来たオーストラリア口語英語の初心者は何を聞かれているか聞き取れないで難渋する。ぐしゃぐじゃっとして、聞き取りにくいから、応答ができない。

“Did you” は “Didja” (ディッジャ)。“How did you” は “Owdja” (アウジャ)。“What did you” は “Wodja” (ウオジャ)。“When did you” は “Whendja” (ウエンジャ)。“Why didn’t you” は “Wadincha” (ワディンチャ)、ないし “Wadoanch”

(ワドウンチャ)。そして、“Are you going to”は“Are ya gunna”(アヤガンナ)等と発音される。

実は、口語発音では、多少の違いはあるが、他の口語言語でも似たような傾向がある。このような場合、しばしば初心者は「書いて貰えば判る」と言うが、それは、「視覚綴りで書いてもらえば判る」ということであろう。視覚的に判るといっても、音声が聞き取れるようになるわけではない。要するに、通常に分かち書きの視覚文字綴りでは、切れ目のない発音の聴覚口語は、視覚で文字を取り込むようなやり方では取り込めないのである。口語と文語は全く別物であることは既に説明した。

従って、

Did you have a good weekend? は Djavagud weegend? (ドジャバグッドウィーゲンド?)

How did you find this place? は Owdjafindthisplace? (アウジャファインドズイスプライス?)

What did you do today? は Wodjadotodie? (ウォジャドゥーツーダイ?)

When did you arrive in Sydney? は Wedjarriive inSydney? (ウェンジャライブインシドニー?)

Why didn't you come this way? は Wadincha comethisway? (ワデンチャカムズイスワイ?)

Are you going to have a shower? Areyagunna avashower? (アヤガンナ アバシャワー?)

等となる。

このような音声英語発音を文字英語で表記する時には、次のようにする人もいる。He won, didn't he? は E won, dinty? (イーワン デイントイー?)。How much is it? は Emachisit? (イマッチイズイット?)。とにかく口語では切れ目なく発音されるものである。ひとつひとつに切れ目を入れて発音したのでは口語ではない。印刷テキストを使って、口語英語の学習をする時は、この点の切れ目について特に注意すべきである。

10 オーストラリア口語英語の子音、母音の発音について

一般に、英語の語尾の“d”, “t”, “g”の子音はしばしば口語では、「脱落する」。または、その前後の音が連結して、耳で聞き取れる時には、個別の音とは

違うように聞こえる。従って、Did you? “Didyu?” (デッジュ?) 【した?】
What did you? “Wodja?” (ウォッジャ?) 【何をした?】 How are you going? は
“Owyagoan?” (アウヤゴウン?) 【元気?】。これらの表現は日常、実によく使
われる。また、オーストラリア人が大好きな「ちょつとやらせてみて」の意味の
Give us a go. はGivesago. (ギベスアゴウ) と一息で言う。

オーストラリア人が人に会ってまず発する語は、HelloやGood morningよりも、
Good dayだ。実際はG'dayと綴って、「グッダイ」と発音する。しばらくオース
トラリアを離れていたオーストラリア人は、帰路、オーストラリアン航空の飛行
機に乗り、アナウンスがグッダイの挨拶が始まると、本当にこれで故郷に帰った
のだと涙が込み上げてくるほど壊しくなると言う。ところが、このオーストラリ
ア英語の発音はオーストラリア人以外には、なかなか聞き取れない。オーストラ
リア人以外の世界の人々には、英語と言えばアメリカ英語やイギリス英語の発音
が普及しているからだ。以下、口語言語の一般的特徴を説明しながら、日常的に
使われるオーストラリア口語英語の特徴を説明する。

アメリカ口語英語、イギリス口語英語を知っているオーストラリア人以外の人
が、オーストラリア口語英語をはじめて聞くと、“today” 「ツダイ」は、“to die”
と同じに聞こえてその意味を取り違える。Where are you going today? (今日は何
処へ行きますか?) だが、Where are you going to die? (今日はどこで死ぬ気?) と
取り違えて、笑えない笑い話となる。

Make way for the lady with the baby. (赤ちゃんを連れた奥様をご案内して) は
Mike why for the lydee with the bybee. となって何のことやらわからない。

オーストラリア口語英語の子音と母音の発音の仕方について、英米の口語英語
発音と比べて簡単に説明しよう。子音については、誤解されるほど大きな違いは
ない。しかし、母音の発音については、有名な違いがある。nameの母音のaの発
音がアイとなることだ。nameは/naim/ (ナイム) である。Stationは (スタيش
ョン)。従って、todayはto die (ツダイ) と同じに聞こえる。I (私) は (オイ)

と聞こえる。like (好き) は (ロオイク)。また、he, herにおける語頭のhの子音は、他の国の口語英語、例えば、英米でもインフォーマルな語の発音では同じ傾向にあり、しばしば発音されない。従って、He likes her. は (イーロイクスアー) (E loikser) と聞こえる。

11 オーストラリア口語英語では「短縮語」(Shortened Word) を多用する

オーストラリア口語英語には、切れ目なく早口で話すことその他、短縮語を多用するという特徴がある。既に述べたように、聴覚音声言語は、視覚文字言語と違って、情報を文字にして蓄積しない分、蓄積・保持する能力が極めて小さい。従って、話し手は伝えたい情報が頭に浮かぶと、その情報をすぐに放出しようとする。別な言い方をすれば、ある意味を伝えるのに短時間で多くの意味を伝えようとする。そのために、話し手は、可能な限り切れ目なく早口でしゃべる。しゃべる努力と工夫をする。結果として、話し手は、視覚文字でいう「省略」「短縮」をする。しばしばある音素を発音しない。あるいは3音節、4音節の語を1音節、2音節に短縮する工夫をする。発音しなくて済む音は発音しない。これが言語の経済性と呼ばれるものである。

そんなわけで、オーストラリア口語英語では、文字言語と比較すると、短縮形と思われる語が実に多い。まず、Australians (オーストラリア人) はAussie (オージー) と言う。もっと縮めてOz (オーズ)。Univercity (大学) はUni (ユニ)。delicatessen (食料雑貨屋) はdeli (デリ)。bricklayers (煉瓦積み職人) はbrickies (ブリッキーズ)。biscuits (ビスケット) はbikkie (ビッキー) のように語尾がイーとなるものが多い。「オーストラリア英語は赤ちゃん語だ」などといわれるくらいだ。ちなみに、幼児語は、大人の言語と比べれば未発達で、口語のみであるから、短縮形が多いのである。

You go to the greengrocers for vegies. (八百屋に野菜を買いに行く)

You take the kids to kindie. (保育園に子供を連れていく)

If you're a tart, you wear lippies. (あばずれ女なら口紅もつけよう)

If you're a gerrie, you wear a singie under your nightie. (老人なら夜着ガウンの下に

丈の短い下着も着けよう)

You get pressies at Chrissie. (クリスマスにはプレゼントを貰う)

他に

arvo (afternoon 午後) / barby (barbecue バーベキュー) / bizzo (buisness こまごまとした仕事) / brekkie (breakfast 朝食) / caulie (cauliflower カリフラワー) / chewie (chewing gum チューインガム) / chockies (chocolate チョコレート) / compo (compensation 補償金) / cuey (cucumber キュウリ) / deli (delicatessen 食料品店) / demo (demonstration デモンストレーション) / footy (football オーストラリア式フットボール) / garbo (garbage collector ゴミ収集職人) / gastro (gastroenteritis 腹痛) / greens (green vegetables 青野菜) / info (information 情報) / kiro (kirigram キロ) / lezzo (lesbian レスビアン) / lingo (language 言語) / lobbies (lobsters ロブスター) / marge (margarine マーガリン) / mash (mash potato マッシュポテト) / memo (memorandum メモ) / milko (milkman 牛乳配達員) / mozzies (mosquitoes 蚊) / mushie (mushroom マッシュルーム) / nana (banana バナナ) / nasho (national service 兵投などの) / nightie (night wear 寝着) / postie (postman 郵便配達員) / roo (kangaroo カンガルー) / sammie (sandwich サンドイッチ) / strawbs (strawberries イチゴ) 等。

12 オーストラリア口語英語ではシミリー (Similes) を多用する

音声言語における視覚イメージ表現で、活力ある典型技法は、「シミリー」と呼ばれる比較表現技法である。形状、空間を比較する言葉の表現技法で、丸い、四角、広い、狭い、遠い、近い、濃い、薄い、長い、短い、太い、細い、赤、青、黄の色等の事物の性質を比較して表現する技法である。オーストラリア口語英語は、この視覚的想像力・連想力に富んだ表現能力が大きいことだ。形状、空間を捉える独創的で新鮮な描写力の活力だ。オーストラリア口語英語は、この視覚的イメージを活用したシミリーが多用されている。

一般に、オーストラリア人はもの静かでありおしゃべりはしない民族だと私

は思う。バス停でも銀行のカウンターの前でも大変お行儀がよく、列を作って黙って待つ。学校の教室にいる生徒も訓練が行き届いていて、無闇におしゃべりはしない。しかし、アルコールが入ると別で、パブはどこでも夕方には満員、誰彼やたらと捕まえておしゃべりを楽しむ。そこで使われる英語はまたすごい。

パブの英語を少し紹介しよう。いきなりビールをpiss（尿、おしっこ）と言うからぎょっとする。もっと上品にはgrog（酒）。動詞としても使って、「友達と飲む」は、“grog on with his mate” 仕事の帰りや日曜日の午後（Sundy arvo）の4時頃から7時頃までが「飲み頃」（The Session）である。飲み屋で酒の買い方は日本とは違う。ビール代金は前払い。グラスで一杯ずつ現金前払いで買ってから飲む。グラスの大きさもいろいろ。州によっても異なる。シドニーのあるニューサウス ウェールズでは425ミリリットルはschooner（スクナ）と呼ばれ、285ミリリットルはmiddy（ミディ）。この二つが最も標準的で飲酒運転のチェックの際にも使われる飲酒量の単位になる。この他575ミリリットルはpint（ポイント）。小さい225ミリリットルはseven（セブン）と呼ばれる。pot（ポット）はメルボルンのあるビクトリア州では285ミリリットル。南オーストラリア州で butcher は225ミリリットル。タスマニアではa beer sixと言う170ミリリットルの小さいものもある。語とはこのように使用者が自分の生活においてそれぞれの必要に応じて作り出す。多くの場合、自分とか自分の集団とか、自分がコントロールできると思こんでいる道具として存在する。その意味において、自分が使う語は、誰でもが、自分のものだと思こんでいる。特に口語はその傾向が強い。その結果として、口語では、共通の使用範囲が一般には狭い。

さて、酒飲みのおしゃべりは世界中どこでも同じで、人生、政治の問題から職場や下劣なエッチな話まで。しかし、その表現の豊かさはオーストラリアが世界一である。

オーストラリア口語英語が、創造的で新鮮で生き生きと豊かである原動力は、話し手の想像力あるいは連想力の活用である。その代表的な言語技法がシミリー（Simile）【直喩】と呼ばれるものである。

オーストラリア口語英語が視覚的快感を創造する原動力となるシミリー (similes) 【直喩】 の例をほんの一部だけ紹介する。

The harvest was so poor the sparrows had to kneel down to get at wheat.

(あまりにも不作で雀も麦を食う時にはひざまずかなければならなかった)

It spread like a bushfire.

(野火のように四方八方に広がった)

He was too mean to hang himself.

(あいつはてめえでは首すらつれないケチ野郎)

It was as rough as a pig's breakfast.

(豚の朝飯くらいがつかつしていた)

He's lower than a snake's belly.

(あいつは蛇の腹より下劣だ)

As hot as a honeymoon on a hot summer's night.

(暑い夏の夜の新婚さんくらい燃えている)

更に、bombed out (酔っぱらっている) / bum-nuts (尻の実=卵) / chick (娘っこ) : "Don't seduce such a chick" (そんな娘っこには手を出すな) / cot case (へとへとに疲れている) : "He is a cot case." (彼はへとへとだ) / cow juice (牛のジュース=ミルク) / deadhead (馬鹿者) : "You're deadhead." (君は馬鹿だ) / dog's eye (ミートパイ) / drum stick (鶏の脚肉) / dry as drover's dog (すごく喉が乾いている) : "He is dry as drover's dog." (彼はひどく喉が乾いている) / five finger discount (万引き) / flat out like a lizard drinking (忙しくは回っている) : "He's flat out like a lizard drink." (彼は忙しく走り回っている) / fly cemetery (果物のスライス) / fly-bog (蠅の便所=ジャム) / garbage! (くだらねえ!) / hit the tin (小銭を寄付する) / husband-beater (長い棒状のパン) / kick the bucket (死ぬ) : He kicked the bucket yesterday. (彼は昨日死んだ) / like a hornet in the bottle (瓶の中の蜂のように騒がしい) / like a possum up a gum stree (ユーカリの木にいるポッサムのように落ち着きがない) / like a rat up a drain pipe (排水管の中にいるネズミのようにばたばたしている) / little boys (小さなソーセージ) /

loaded (たらふく飲んだ) / moo-juice (モーのジュース=ミルク) / mountain oysters (子羊の睾丸) / parson's nose (牧師の鼻=料理した鶏肉の臀部肉) / ratbag (ごろつき) / stone the crows (ああ驚いた!) / underground mutton (ウサギ) 等々、例をあげれば切りがない。

13 オーストラリア口語英語では、ライミング スラング (Rhyming Slang)

【語呂合わせ言葉】を多用する

音声言語における聴覚的イメージ表現で、活力ある典型技法は、ライミング (Rhyming) 【語呂合わせ】と呼ばれる比較表現技法である。形状、空間を比較する言葉の表現技法で、音の表現力、強い、弱い、柔らかい、荒々しい、高い、低い、大きい、小さい、上がり調子、下がり調子、テンポがいい、テンポが悪い、タイミングがよい、タイミングが悪い等を表現する技法である。オーストラリア口語英語は、この聴覚的想像力・連想力に富んだ表現能力が大きいことだ。音声からくる独創的で新鮮な描写力の活力だ。オーストラリア口語英語は、この聴覚を活用したライミング スラング (Rhyming slang) 【語呂合わせ言葉】が多用されている。

次にオーストラリア口語英語のライミング スラング (Rhyming slang) 【語呂合わせ言葉】と呼ばれる例を紹介する。ライミングは短縮語と違って、オリジナルの語より通常長くなる。が、その表現の聴覚的連想のおもしろさを楽しもうというものである。例えば、“wife” のことを “trouble and strife” (諍いが耐えない厄介者) と言う。この表現のおもしろさは「妻」(wife) という対象を「諍いが耐えない厄介者」として意味の上で皮肉を込めていると同時に、“wife” と “strife” に脚韻を踏んでいる点である。更に “trouble” と “strife” においては完璧ではないが頭韻も踏んで、音の響きと共に連想をスムーズにしている。英語、特に音を大切にする韻文においては、脚韻は極めて有効な表現技法である。頭韻も古い英語では基本的な作文技法である。ことわざや格言では、今でもあちらこちらで遭遇する伝統的な聴覚表現技法である。“wife” と言う代わりに “trouble and strife” と言う。こんなにもながたらしく時間をかけて敢えて言う発話技法は、ひとえに、表現のおもしろさ、滑稽さをねらっているからに過ぎない。

オーストラリア口語英語には、常にこの言葉を楽しむ精神がみなぎっている。

“Mrs.” の代わりに “cheese and kisses” と言う。“kids” の代わりに “Billy lids” と言う。“dog” の代わりに “hollow log” と言う。“cat” の代わりに “Ballarat” と言う。“dollar” の代わりに “Oxford scholar” と言う。下線部の音を合わせて、すなわち脚韻を利用して、意味の連想もさることながら、音の響きを楽しんでいる。

こういうライミングのやり方は、この技法だけが独立してあるのではない。例えば、既に説明した短縮技法と一緒に使われる。例えば、“Two caulies for an Oxford” というのは、“Two heads of cauliflower for a dollar” (1ドルでカリフラワー2つ) の意味である。“Two caulies” は “Two heads of cauliflower” であり、“for an Oxford” は “for an Oxford scholar → for a dollar” のことである。何とも複雑であるが、オーストラリア口語英語を楽しむ人の頭の中では、この関係が一瞬にして駆けめぐっているのである。実にこれが口語表現と言うものである。

“telephone” のことを “Al Capone” と言う。なるほど家族ほど電話で遣り取りする姿が様になるイメージはこの他にはあるまい。“a suit” は、“a bag of fruit” と言う。服なんて着たって所詮は猿。「果物袋を被っている」猿。え張っちゃいけない。オーストラリア人の皮肉根性がここに見える。“look” は “Captain Cook” と言う。何しろオーストラリア大陸を発見した偉人。「見る」ことにかけては最も適している人物だろう。それにしても、同じ脚韻を踏む “cook” は、“babbling brook” と言う。鍋の中で煮えたぎる様は、泡立てて流れる小川のごとき連想は脱帽である。

Billy lids (kids) : How noisy the Billy lids are! (子供達はうるさい!)

Bob Hope (soap) : Where did you buy those Bob Hopes? (その石鹸どこで買った?)

hollow log (dog) : How's your hollow log? (君の犬は元気かい?)

John Hops (cops) : You can see John Hops there? (あそこに警官がいる?)

Steak and Kidney (Sydney) : I'll be in Steak and Kidney by morning. (朝までにシド

ニーに着く)

tit-for-tat (hat) : You bought a nice tit-for-tat. (よい帽子を買いましたね)

trouble and strife (wife) : How is your trouble and strife? (奥さん元気かい?)

英語を印刷物を通しての外国語として、視覚で学習している者には、この口語の発話技法にはなかなかなじめないものがある。しかし、口語とはこのように聴覚的、視覚的想像力に富んだものである。発話者はいつも意味を伝える方法として、聴覚的イメージ、視覚的イメージの創造と想像、慣用と変更、そして時間と空間を活用して、コミュニケーションを楽しんでいる。こうして人間は言葉を使って生きている。

14 ま と め

- 1 言葉は生きている。言葉は使う毎に変化し、成長し、ついには死滅する。
- 2 言葉の使用は、人間の絶え間ない快感を伴う生命活動である。
- 3 オーストラリア口語英語は、一定の意味のまとまりを切れ目なく発音する。
- 4 オーストラリア口語英語は、短縮語を多用する。
- 5 オーストラリア口語英語は、シミリーを多用する。
- 6 オーストラリア口語英語は、ライミングを多用する。
- 7 オーストラリア口語英語は、想像力にあふれ、新鮮で、バラエティに富んだ活力ある言葉である。

参考文献

- (1) *Kangaroo's Comments & Wallaby's Words—The Aussie Word Book* by Helen Jonsen, illustrated by John Colquhoun. Hippocrene Books, New York. 1988.
- (2) *Australian Speech* by Sydney Committee for Overseas Students. (4 page handout delivered at the Library of Macquarie University, Sydney) 1989.
- (3) 『オーストラリア口語英語の特徴』 柏瀬省五 岡山大学 環境理工学部 紀要第1号pp.279-261. 1999.
- (4) *The Australian Slang: A Look at What we Say and How we Say it* by Bill Hornadge. Cassel Australia, Melbourne. 1980.

- (5) *A Dictionary of Australian Colloquialisms* by G.A.Wilkes. Collins Publishers, Australia. 1988.
- (6) *G'Day! Teach Yourself Australian in 20 Easy Lessons* by Colin Bowles. Angus & Robertson Publishers, North Ryde, Australia. 1986.
- (7) *The Macquarie Dictionary of Australian Colloquial Language*. The Macquarie Library. Macquarie University, Australia. 1988.
- (8) *The Pocket Macquaire Dictionary* (ed.) by David Blair. The Jacaranda Press, Australia. 1988.